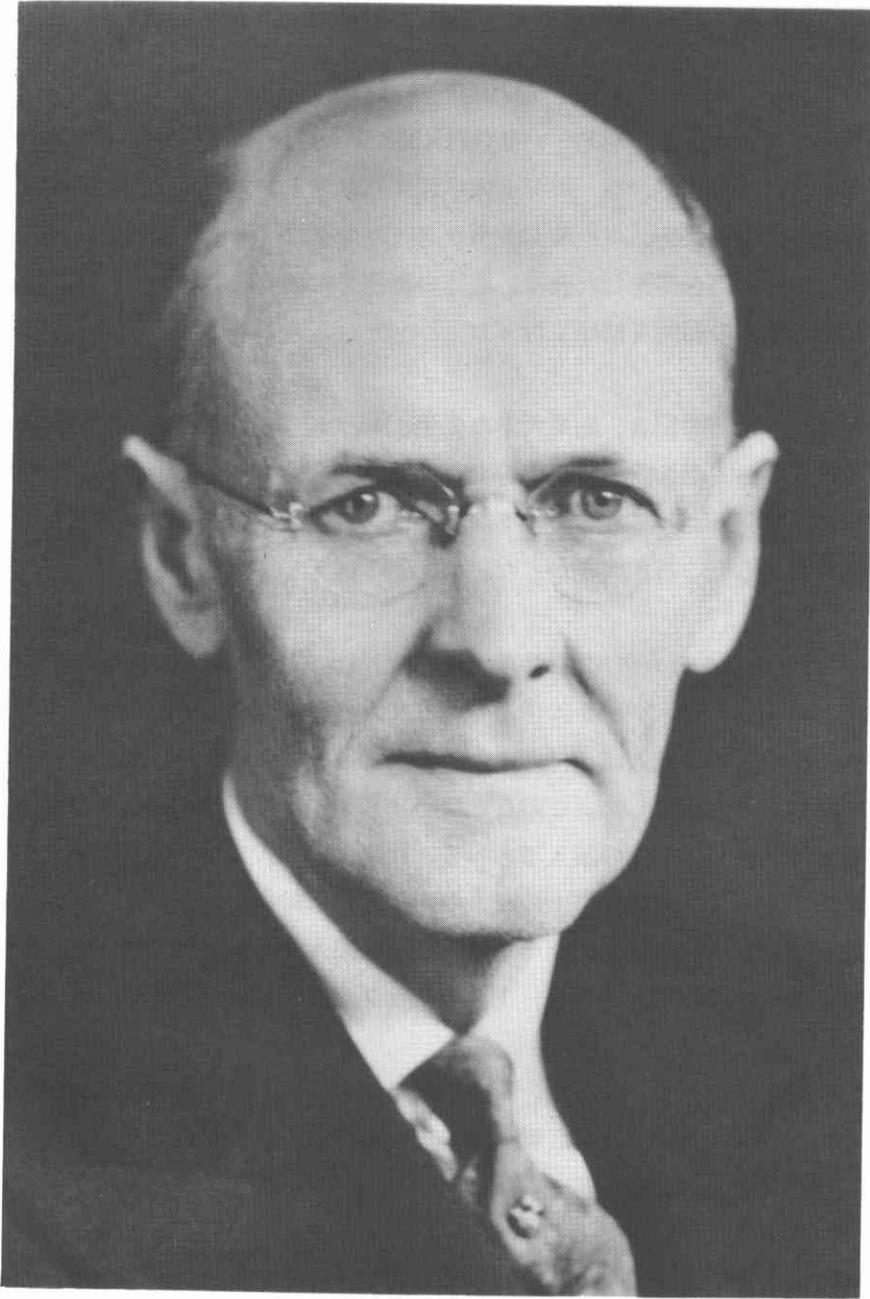


手をとり合って
奉仕の道を

(背文字及び題字は竹野 融 会員の揮毫である)



ロータリーの創始者 ポール P. ハリス

ロータリーの創始者 ポールP. ハリス氏略歴

ロータリーの創始者、ポールP・ハリスは1868年4月19日、米国ウィスコンシン州レーシンで生れた。そして、バーモント大学、プリンストン大学およびアイオワ大学に通学する前の少年時代を、バーモント州ウォーリングフォードで過した。1891年にアイオワ大学の法学部を卒業した彼は、法律の実務を始めるまでの5ケ年間、広く世間を知り、また交友の範囲を拡げて行った。

ポール・ハリスは新聞記者、商業大学の先生、レパトリー式専属劇団の舞台俳優、カウボーイなどをして働き、また大理石および花崗岩会社の外交員として、広く米国および欧州を見て回った。これらの様々な経験は、彼の識見を広め、ロータリーの初期の発展に貢献するところが大きかった。

1896年にハリスはシカゴに出て、弁護士を開業した。1900年のある日、彼はシカゴの住宅地域、ロジャース・パークに住んでいる友人の弁護士といっしょに食事をした。食後の散歩の途中で彼の友人は、付近の大小の店舗数軒に立ち寄り、ハリスを自分の友人である商店主らに紹介した。このことはハリスをいたく感動させた。弁護士としての彼の顧客は、みな仕事上の友人であって、社交上の友人ではなかったのである。この経験からハリスは、彼の仕事上の友人の少なくとも何名かを、社交上の友人にすることができないものかと考えた。そこで彼は、実業人並びに専門職業人の若干名を選んで、友愛と親交のきずなで結び、1つのクラブを組織しようと決心した。

それからの数年間、ハリスは人生と事業の諸条件についての思索に、多大の時間を費した。そして1905年までの間に、職業上の関係について明確な哲理を体系立てたのであった。彼は弁護士の顧客3名—石炭商シルベスター・シール氏、鉱山技師ガスタバス・ローア氏および仕立販売業ハイラ・ショーレー氏と話し合った結果、彼が1900年以來構想を練って来たクラブを、これら3名と共に組織しようと決意した。1905年2月23日にクラブの第1回会合が開かれ、後日世界に結成を見た数千のロータリー・クラブの核心がここにでき上ったのである。会員たちが各自の事業所で輪番に会合し

たためハリスが「ロータリー」と名付けたこの新クラブは、一般の評判がよく、会員数は急速に増加した。会員のほとんどすべては小都市からシカゴへ出て来た人々であったので、彼らは少年の頃経験した親密な交友を、ロータリー・クラブにおいて再現することができたのである。創設後3年目にクラブの会長になったハリスは、ロータリーを他の都市へも広げたいと熱望した。それは彼が、ロータリーを将来重要な奉仕運動にまで発展させることができると確信したからである。

第2番目のクラブが1908年サンフランシスコに結成されたのに続いて、他のクラブも漸時組織されて行き、1910年にはクラブの数が16になった。ここにおいて、これらのクラブを1つの組織体に統合し、さらに運動を他の都市へも広げて、クラブ間のアイデアを交換する。手形交換所の如きものを作るべきだという結論に到達した。1910年8月、クラブの代表者たちがシカゴに集まり、**全国ロータリー・クラブ連合体**を結成した。その後カナダおよび英国にもクラブができ、運動の範囲が国際的となるに及んで、名称も1912年に**ロータリー・クラブ国際連合体**と変更された。そして1922年、これを短かくして**国際ロータリー**とした。ポール・ハリスは、**全国ロータリー・クラブ連合体**並びに**ロータリー・クラブ国際連合体**の初代会長であった。

ポール・ハリスが1947年1月に死去したとき、彼は**国際ロータリー**の名誉会長であった。

ポール・ハリスはロータリーのために多くの時間を献げたが、同時に社会的および専門的分野においても有名であった。彼は全米身体障害児童および成人協会並びに、身体障害児童国際協会の初代会長であった。彼は**シカゴ弁護士協会**の理事会の1員であり、**ヘーグ法律国際会議**における同協会の代表であった。彼はまた**アメリカ弁護士協会**の委員会委員をも勤めた。

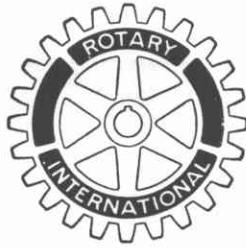
ポール・ハリスは、バーモント大学から哲学士および法学博士の学位を、アイオワ大学から法学士の学位を授けられた。アメリカ・ボーイスカウトは彼にシルバー・バッファロー賞を贈った。彼はまたブラジル、チリ、ドミニカ共和国、エクワドル、フランスおよびペルーの政府から勲章を授与された。



ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹しこれを育成し、特に次の事項を鼓吹育成するにある。

- 第1. 奉仕の機会として知り合いを拡めること。
- 第2. 実業及び専門職業の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること。
そしてロータリアン各自が、職業を通じて社会に奉仕するために、その職業を品位あらしめること。
- 第3. ロータリアンすべてが、その個人生活、職業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用すること。
- 第4. 奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。



四つのテスト

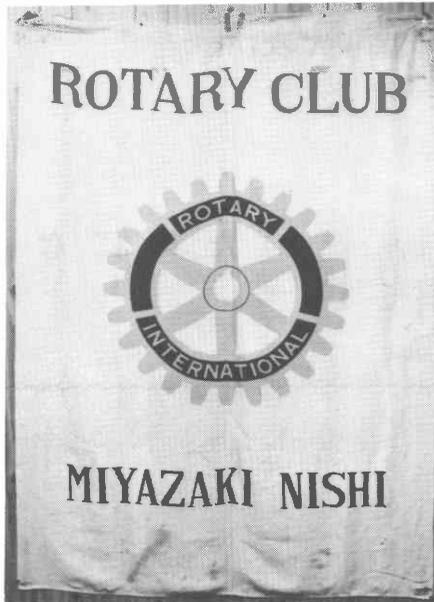
言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を
深めるか
4. みんなのためになるか
どうか

認 証 状



宮崎西クラブ旗



晴れの認証状伝達



昭和35年11月12日

宮崎西クラブバナー変遷



右は創立以来昭和40年迄使用され、左側が以後今日迄使用されている。

第6代長峰市次会長時代に、わがクラブ創立5周年と地区年次大会が当地で開催されるというので、これを機会につくり直してはということになり、クラブ内にバナーの特別委員会が発足した。

委員長 橋本一郎

委員 栗林東五・郡 嗣彦・橋本善吉・黒木 勝

デザインや経費の点で色々と経緯があったが、結局、県立宮崎工業高校デザイン部の興侶義孝先生、かつて当クラブの卓話をお願いした「ろうけつ染」の一人者に依頼、図案から東京の織元など先生を煩わして、経費の関係から写真版にて調製することになり、完成するまでには1年有余もかけられた苦心作のバナーである。

二回目バナー委員長 橋本一郎

目 次

20年史刊行にあたって.....	日高文雄...	1
名誉会員.....		2
ガバナー及びパストガバナー.....		3
第273地区ガバナー及び県分区代理(1979—80).....		6
歴代会長.....		7
初代(故)田崎亀夫会長を偶ぶ.....	日高文雄...	11
故木浦義雄会員 告別式.....	中村 浩...	13
特別代表 福田甚二郎さん逝去.....		14
歴代地区ガバナー会長・副会長・幹事.....		15
地区の変遷		
チャーターメンバー		
創立75周年(ロータリー)		
創立20周年(西クラブ) 記念実行委員会.....		16
第 1 編 20周年の喜び		17
創立20周年記念式典.....		18
会長挨拶.....	宮下廣計...	20
ロータリー創立75周年記念事業発表.....	橋本一郎...	23
20周年記念事業発表.....	日高文雄...	24
表 彰.....		27
永年無欠席表彰受賞者.....		28
祝 辞.....	井上和人...	29
祝 辞.....	日高安壮...	31
記念式典と祝賀懇親によせて.....		32
祝 賀 会.....		33
20周年記念座談会.....		38
会長時代.....		44
第 2 編 ロータリーの発生		62
第1章 ロータリー・クラブの構成と諸目的.....		62
第2章 ロータリー宣言.....		65
第3章 全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓.....		66

第4章	ロータリーの誕生	68
第5章	第273地区の概要	70
第3編	クラブ関係	82
	R・I会長指針	82
	クラブ運営方針	
	ガバナー公式訪問講演	104
	クラブ概況の推移	110
第4編	職業奉仕	112
(1)	職業奉仕の意義	112
(2)	ダリア賞の制定	112
第5編	社会奉仕	118
(1)	社会奉仕	118
(2)	青少年奉仕	118
(3)	社会奉仕基金制度発足	119
(4)	宮崎西ロータリークラブ奨学資金規程	120
(5)	古紙・古切手回収の奉仕実施	121
(6)	インターアクト	124
第6編	国際奉仕	143
(1)	国際奉仕の由来	143
(2)	国際奉仕のねらい	145
(3)	西クラブが実施した交換学生	146
(4)	交換学生報告	147
(5)	1979年3月交換学生報告	148
(6)	地区世界社会奉仕の状況	149
(7)	アテネ北R・C・メイクアップの思い出	日高文雄…151
(8)	昭和54年度ロータリー世界大会(ローマ大会)に参加して	竹内三郎…152
第7編	ロータリー財団	154
(1)	ロータリー財団の発祥	154
(2)	ロータリー財団の諸活動	155
(3)	ロータリー財団寄付者	159

(4) 教育補助金	160
(5) 研究グループ交換 (GSE)	162

第8編 主催した主たる行事

第1	新会員懇話会	168
	プログラム	169
	ホストクラブ会長の歓迎挨拶	大古殿和丸 171
	ガバナー挨拶	向笠広次 171
	バストガバナー挨拶	島津久厚 173
	ロータリー解説	174
第2	インターシティー・ゼネラル・フォーラム	181
	プログラム	181
	歓迎のことば	吉賀幸夫 186
	ガバナー挨拶	日高安壮 186
	部問別討議	187
第3	地区協議会	205
	プログラム	206
	開会のことば	川辺政明 213
	あいさつ紹介及び地区協議会の目的並びに構成説明	杉原頼三 214
	財政	東 博仁 214
	地区ガバナーの訪問	東 博仁 215
第4	インターシティー・ゼネラル・フォーラム	217
	プログラム	217
	R・I会長のメッセージ	218
	歓迎のことば	菊池 彰 220
	分区代理挨拶	安楽 清 221
	激励のことば	塘 一郎 222
	分科会	225
	分区代理謝辞	藤吉雄二 232
	閉会のことば	田中秀男 233
第5	創立10周年記念式典	234
	プログラム	234

	奉仕活動のあらまし	235
第6	創立15周年記念式典	236
	プログラム	236
	来賓名簿	237
	ご挨拶	日高文雄... 238
第7	宮崎南クラブ設立スポンサークラブとなる	242
	プログラム	242
	御挨拶	日高真太郎... 243
	激励の辞	日高文雄... 245
第9編	区域限界の変遷	247
	区域限界に関する協定書	247
	宮崎南RC新設に伴う区域限界改正に関する協定書	251
第10編	クラブ年誌	253
第11編	会員名簿	374
第12編	資料	391
	出席標語名作集	391
	そこで一句集	394
	思い出のアルバム	396
	編集後記	20年史委員長... 日高文雄... 410

20年史刊行にあたって

20周年記念実行委員長

日 高 文 雄

1980年は宮崎西ロータリークラブにとって、極めて意義深い年であります。国際ロータリーも、1905年2月23日、アメリカはシカゴに発生してから75周年を迎えるということで、全世界のロータリアンに記念事業として3日運動と会員一人あたり15ドル寄付の運動を推奨している記念すべき年に、わがロータリークラブは機を同じくして、創立20周年をめでたく迎えたのであります。



昭和35年4月8日チャーターメンバー25名、初代会長（故）田崎亀夫君、爾來歴代の会長を中心に会員一同がロータリー精神という生命体を一心に見つめ、その内容を認識して取り組み、数々の奉仕を実践し、宮崎西クラブは永遠に消えることのできない灯が根強く輝き、躍動して今日の発展があります。

私共が宮崎西クラブ過去20年間の足跡を明らかにすることは、過去の事象が現代への行動の基準を与えてくれるという重要なものがあると思います。

従ってこの記念史発行が、20年をまた一つの節として宮崎西クラブ挙げてこれを記念し、さらにロータリーの洋々たる未来への発展のための、確固たる歴史的礎となってくれば幸であります。

名 譽 會 員



宮崎県知事 松形 祐典



宮崎市長 中村 隆則

ガバナー及びパストガバナー(第273地区)



西クラブ設立に活躍された当時の
ガバナー(故)中牟田喜兵衛
(福岡)



認証状伝達されたガバナー
(故)増永茂己(熊本)



1965～66 ガバナー
島津久厚(都城)



1966～67 ガバナー
吉村常助(熊本)



1967～68 ガバナー
向笠広次(中津)



1968～69 ガバナー
大津篤造(鹿児島)



1969 ~ 70 ガバナー
日高安杜 (宮崎)



1970 ~ 71 ガバナー
八田 秋 (別府)



1971 ~ 72 ガバナー
小田一昭 (熊本南)



1972 ~ 73 ガバナー
東 博仁 (熊本東)



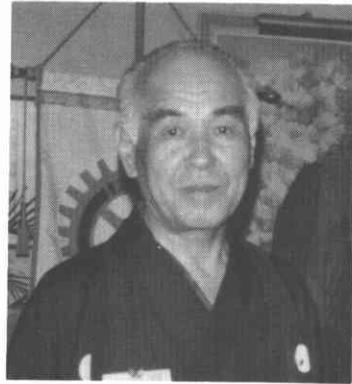
1973 ~ 74 ガバナー
杉原頼三 (鹿児島南)



1974 ~ 75 ガバナー
竹野 融 (宮崎西)



1976 ~ 77 ガバナー
後藤基彰 (竹田)



1977 ~ 78 ガバナー
(故) 塘 一郎 (鹿児島西)



1978 ~ 79 ガバナー
西田武雄 (八代)



1979 ~ 78 ガバナー
吉村武文 (延岡)

第273地区ガバナー及県分区代理(1979~80)



ガバナー 井上和人(出水)



北部分区代理
小泉 久(延岡東)



中部分区代理
菊池 弘(宮崎)



県南部分区代理
鎌田芳郎(都城西)

歴代会長



初代(昭和35年)
田崎龜夫



2代(昭和36年)
栗林東五



3代(昭和37年)
佐原伝次郎



4代(昭和38年)
住田静一



5代(昭和39年)
菊池稔



6代(昭和40年)
長峰市次